

二十六卷新合

全



Very faint, illegible text in the upper left quadrant of the left page.

Very faint, illegible text in the lower left quadrant of the left page.



津野宜胤



題

時雨 殘菊 魚

讀人

左

皇后宮攝津君 女房

少輔君 顯仲朝臣

上総君 師俊朝臣

定信朝臣 威方朝臣

信濃君 忠房朝臣

永實女  
用白帝女房

俊隆朝臣 重基朝臣

右

俊頼朝臣 顯國朝臣

雅直朝臣 道經朝臣

基俊朝臣 雅光朝臣

宗國朝臣 忠隆朝臣

信忠朝臣 兼昌朝臣

時昌朝臣 為實朝臣

判者 俊頼朝臣 基俊朝臣



一番 時雨

左 兩人共為勝

皇后宮攝津君

くしりまのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふのしつらふの時雨哉

右

俊頼朝臣

いふはつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

俊頼云ふしつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

いふはつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

いふはつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

いふはつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

いふはつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

左勝もやうへい

其の俊云ふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

てをうしつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

まいつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

いふはつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

二番

右 俊持基勝

女房

あやしくしつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

右

顯國朝臣

あやしくしつらふのしつらふをよそよそしくしほくこびくしつらふの時雨哉

男の文



後云おの音いゝまのこゝ思ふまゝいゝかゝるわいゝ  
なしきわ但志をなほかゝるまゝいゝるゝるゝるわ  
のりんははゝゝのいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
て常ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
大ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
其云志を何のつら狭いれととわゝゝゝゝゝゝ  
次はいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三番

左 俊勝

少ね君

志を何のいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右 基勝

稚魚朝臣

冬を何のいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後云おの音いゝまのこゝ思ふまゝいゝかゝるわいゝ

なしきわ但志をなほかゝるまゝいゝるゝるゝるわ

のりんははゝゝのいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

て常ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



とゆふにうらむさむいりくをさういひま  
しちりくくまいたなうくと侍しく決まわ  
んちりくまいたはあなるからぬ此右言は過難  
辭まはく控て員もや  
其云無むくぬとぬりいあかよよとて  
ぬりくくまいたなうくと梅まさきさう言  
くうくよまて侍し控まはれまじふとやぬ  
ふまうりのくく思給ふ

四番

左 其勝

頼仲朝臣

水も青ねのらやいらり梢字りしとを朝臣と  
い

右 俊勝

道經朝臣

いふにこのわいの小舟とく高はれぬと志と  
俊云水鳥はわをいりしは後をす梢字りしと  
ふがく世下くわらわは次前わはりの小舟  
もくらんかふはれぬと志と過は  
わらぬと勝やとて  
其云水鳥はわをいりしは後をす梢字りしと  
まは右の言はれぬと志と過は  
くははるまはく春兩五月飛はれぬと志と











いふも... 侍... 窓  
千両... 侍... 精...  
... 又志... 精...  
... 侍... 精...  
... 侍... 精...  
... 侍... 精...

七番

戸 兩人共勝

定信朝臣

... 侍... 板...

右

宗國朝臣

... 侍...

時雨... 侍... 板...

... 侍... 板...

... 侍... 板...

... 侍... 板...

... 侍... 板...

... 侍... 板...

... 侍... 板...

... 侍... 板...

... 侍... 板...

八番



戸 西判抄

盛方朔居

神皇月三しりて山のまきりく、世よおぬてく言をた

右

忠隆朔居

神皇月志之しりて山のまきりく、世よおぬてく言をた

俊之あきの神皇月三日月次れ月の右るた

しるしりて神皇月三日月次れ月の右るた

神皇月三日月次れ月の右るた

文字わりの常々変るわりのしりて言をた

てしりて言をた

神皇月三日月次れ月の右るた

神皇月三日月次れ月の右るた  
其之此のいりて言をた  
信士朝

九番

左 俊持其勝

信濃右

神皇月三日月次れ月の右るた

右

信士朝

神皇月三日月次れ月の右るた

俊之あきの神皇月三日月次れ月の右るた











後云小衣のすんしてよほいぬたの  
おしよいぬたのすんしてよほいぬたの  
河のまなく初特雨のすんしてよほいぬたの  
すんしてよほいぬたのすんしてよほいぬたの  
すんしてよほいぬたのすんしてよほいぬたの  
其之徒衣のすんしてよほいぬたの  
く四條大納言の式よく浅哥重言してよ  
あつてよほいぬたのすんしてよほいぬたの  
すんしてよほいぬたのすんしてよほいぬたの

思給ふまをの精れ儀然行ふかといふ  
なほまをのすんしてよほいぬたの

十二番

右 俊勝

重基朝卜

柞原之似多しよくまをのすんしてよほいぬたの

右 基勝

為實朝臣

六里柞原のすんしてよほいぬたの  
後之柞原のすんしてよほいぬたの  
草木をのすんしてよほいぬたの  
よほいぬたのすんしてよほいぬたの



























六番

左 俊持 少ね君

右 基勝 信忠朝臣

引やとりはらひもやうな菊かぐいさふは

俊云お尋ありとよてがきうと尊言は  
まもと又何なるもさし次音とあり  
てりはくもむらみくつたといへ腰の又  
字はくもさしむらいちわさし木さうと  
基云痛心かふいりなれく偏がしけ  
ひもさくつといもわも右音の後中書  
まの曲條大納言もさくし守の音も能  
まかられる人りちのよちやうしも川もて  
れん成るにつといもさのりもさく  
侍に似かふのりもさし右海もさく



七番

右 基勝

定信朝臣

霜のしりぞきたるをいひて冬ははるの光

右 俊勝

雅光朝臣

冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

俊之次郎 冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

八番

右 俊勝基持

感方朝臣

冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

右 道經朝臣

冬ははるの光をいひて白菊ははるの光

俊之次郎 冬ははるの光をいひて白菊ははるの光



























つらう給ひ構まぬ世の川も  
よめしきわく既よりのまふん  
も末乃句よいつてゆいれい  
くといふゆい本文のまふん  
ゆ下よもゆいゆい文やわい  
まゆいゆいゆいゆいゆい  
まゆいゆいゆいゆいゆい  
まゆいゆいゆいゆいゆい

基とくらわたり  
ゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆい

先花後實より字カまへり人

いやくや諸家集并評合

ゆいゆいゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆいゆい

唐乃文や中やゆいゆい

と云文の鳴鶴日下といふ

くや次乃句よいつてゆい

い鶴をゆいゆいゆいゆい

ういゆいゆいゆいゆい



びりりまのうらまきとゆりていふ南  
鶴りま井のい入侍もせし又もい  
いよとよや然と源近公相鶴經と云文  
いほ百八十歳にて唯雄のいまや侍  
ふしといよとい侍しとい人といよとい  
いよ可謂の又ま井のいよまじと云と  
いよ井のいよま井のいよま井のいよま  
いよいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよの

三番

右 兩判為勝 女房

いよのいよのいよのいよのいよのいよの  
右 雅真朝臣  
君とていよのいよのいよのいよのいよのいよの

後云前あいとおういよのいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの  
いよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの















おとせーとねしあもせよるも海乃

右 兩判及勝 雅光朝卜

早しめしるる志乃ふ浦乃の因をよしといひくちせいのぬもその  
後云いほけりくおし但お舟の初五文字  
明言をくししそとくづりくく母にけりおれ  
ぬあをふんいおわう乃ちあふもししあ戸ふし  
をれをふんいおわ

甚云こ何れか何れいっさあわねとあせ  
し海乃下句乃こしそあく若し  
をよんえ何志乃ふてづりあはぬいあわ  
お

八番

何れしんりてより今かおはぬふあて目給ふ

右 俊持甚勝 威方朝卜

ふりしんりてより今かおはぬふあて目給ふ

右 信忠朝卜

おとせよふんいおわ  
後云お舟の初五文字  
しにけりくおし但お舟の初五文字  
明言をくししそとくづりくく母にけりおれ  
ぬあをふんいおわう乃ちあふもししあ戸ふし  
をれをふんいおわ



九番

基之石奇いし川の月ははなももい  
志川がきういづかうつしりり少  
奇いしはしき高よりははなももい  
人いよきういづかうつしりり少

石 基勝 道經胡后

あまのいづかうつしりり少

右 俊勝 忠隆胡后

あまのいづかうつしりり少  
俊之あ奇いしはなももい

十番

あまのいづかうつしりり少  
あまのいづかうつしりり少  
あまのいづかうつしりり少

基之此の共いしはなももい

あまのいづかうつしりり少  
あまのいづかうつしりり少

石 俊勝 忠房胡后

あまのいづかうつしりり少



右

宗國朝臣

無き事ふしは 何てか言ふ事し乃ちよしは かの 乃を  
 後云おのりなるよしなきし いかの 年 乃  
 也 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 ことし 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 いり 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 ことし 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 一 國 程の 事 なる 事  
 甚き 事 なる 事 なる 事 なる 事 なる 事 なる 事  
 ことし 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事

十一番

事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事

後勝基持 重基朝臣

右 後隆朝臣

事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事  
 事なる事 かくの 事 かくの 事 かくの 事







右哥力為紙下...の...  
...  
...

基俊判真...獻...哥

身...  
...  
...

...  
...  
...

右哥合者法性寺開白忠通公家

哥合也 干時内大臣

此一冊宗牧宗養兩筆本

以令書字者也







